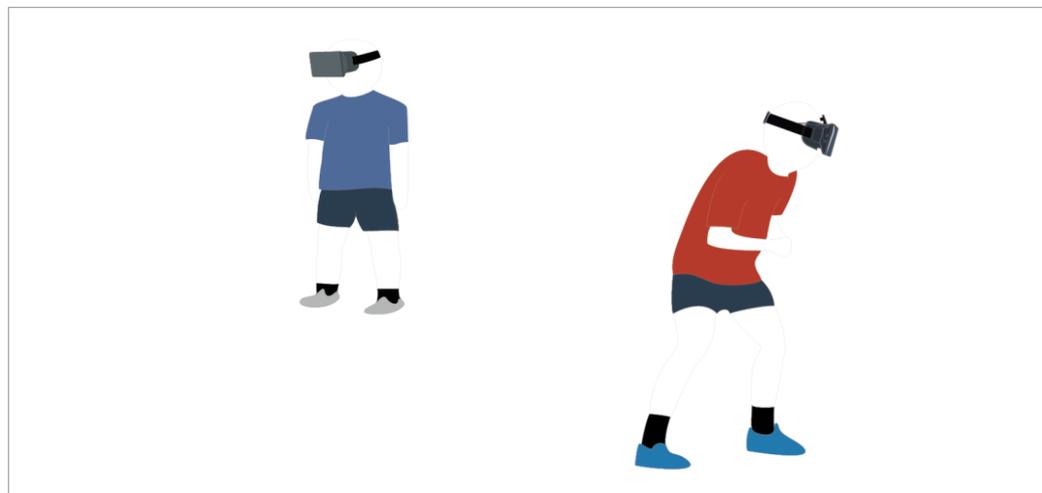


「視覚交換 × スポーツ」

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
リアリティメディアプロジェクト
早川裕彦



「自分探し」でプレイヤーに見えている映像イメージ



HMD装着イメージ図

本企画では図のようなビデオシースルーHMDのカメラ映像を、相手のビデオシースルーHMDのカメラ映像を交換することで、視覚交換を行いスポーツをすることを提案する。

スポーツの一例として「自分探し」を開発した。複数人のプレイヤーが10m×10mのフィールド内にはハコスコ、cardboardのような簡便なHeadMountDisplayを装着し視覚交換をしてプレイする。不特定のプレイヤーからの視点の映像を手掛かりに自分の状況を推測し、映像の送信元のプレイヤーを探し出すまでの早さを他のプレイヤーと競い合う。この際、映し出される自分の姿を手掛かりにプレイヤーを特定することになるため「自分探し」と命名した。

当日会場では実際に会場でプレイしながらルール等の改良を行う、また視覚交換ができるHMDを用いて他の競技の模索も行いたい。